《合格体験記》

【一般選抜　国公立】　東京外国語大学　言語文化学部　ドイツ語学科

私は高校２年生の中頃から大学についての意識がありました。私は言語を学ぶことに興味があり、それを知ってくれていた親がいくつかの大学を調べてくれたので、ぼんやりとした大学のイメージは持っていました。それらの大学が３年生の頃に志望校になっていき、受験した結果入学できることになりました。

世界史の範囲全体を網羅しきった３年生の秋に志望校の過去問題演習を始めましたが、ここから私は、１つの科目を解き終えて答え合わせをした後に必ず解いた感想を書くようにしました。どれだけ難しく感じたかや、どんな順番で大問を解けばよさそうかなどということをメモし、次に別の年度の同じ科目を解くときの足がかりにしました。このように、ひたすら自分の受験校の問題に慣れていくことが大切だと思います。また、私が試験の日まで一番大事にしてきたもので、受験生の皆さんにも身につけていただきたいのは健康的な生活習慣です。まず、早寝早起きを徹底してみてください。そうすることで次の日の集中力は倍増します。さらに試験当日の朝早い日程に対応できるようにもなるので、夜の方が集中できるという人もぜひ朝型に切り替えてください。それだけで有利な受験生になれます。勉強に合わせた生活習慣を作るのではなく、健康的な生活習慣を基盤にして良質な勉強を進めてください。

【一般選抜　国公立】　東京工業大学　情報理工学院

最難関大学に受かるために必要なのは「早く始めて莫大な量をこなす」ことです。才能や良い環境が平等に与えられることはありませんが、受験勉強を始める時期は自分で選ぶことができます。勉強していく中で自分に合った勉強法を見つけてください。また、自分で無意識に勉強量を減らしてしまわないように気をつけましょう。基礎を固める段階で問題数の少ない問題集を選んだり、「面倒だから類題はやらなくていいや」などとしたりするのはかえって遠回りになります。入試問題はある程度パターンが決まっているため、結局は量を稼いだ人が強いのです。とはいえ、長時間勉強できる体力をつけたり、短期間で沢山の参考書をこなしたりしていくことは簡単ではありません。ですから、早い時期から少しずつでも始めることが重要なのです。

私は、中学受験を経験している受験生や、既に高い学力や勉強習慣を身につけている受験生とどうすれば戦えるのか、ということを常に考えるようにしていました。東工大に合格するためには、学校の進度に合わせていては間に合わないと思ったので、予備校の授業で先取り学習をすることもありました。

私が 2 年間の受験勉強でしてきたことが最善だったかどうかは分かりませんが、ただ周りに流されるのではなく、自分で考えて行動出来たことが合格に繋がったと思っています。

最後に、生田高校を進学校にするのはあなた達です。頑張ってください。

【一般選抜　国公立】　東京都立大学　都市環境学部　環境応用化学科

私が大学受験を本格的に意識し始めたのは、2 年生の共通テスト同日模試からです。まだ 1 年あると思っていましたが、そこからの 1 年間はあっという間でした。勉強をする中で私が心がけていた事は振り返りをする事です。ただひたすら量をこなして前に進んでいると、その場では理解したつもりになっていても試験で上手く力が出せないということが起きます。今日の勉強をはじめる前に、少し前に戻って復習し直すだけでも知識の定着度はぐっと上がると思います。模試の結果も自分の勉強の進度を振り返る時にとても良い資料になりました。点数に一喜一憂せず、自分がどの分野が苦手かなどの分析をしてみてください。時間がない中で焦ってしまいがちですが、一度立ち止まって振り返りをする時間を大切にして欲しいと思います。

また、国公立大学は共通テストに必要な科目数が多く、ほぼ全ての教科の対策をしなければなりません。私自身、1 年間で全ての教科を受験で闘える学力まで持っていくことはとても大変でした。1、2 年生で取り組んだ内容は 3 年生になる前から復習することが出来ます。1、2 年生の復習は疎かにせずに、苦手な分野は早い時期から克服しておくと良いと思います。

一般選抜の人はこれから 3 月頃まで勉強ばかりの日々が続きます。辛いなと感じる時もあると思いますが、本番で自分に自信を持って臨めるような 1 年間にできるよう頑張ってください。応援しています。

【公募制推薦　国公立】　神奈川県立保健福祉大学　保健福祉学部　看護学科

私は看護師になりたいという夢を叶えるため、2 年生の 2 月辺りから少しずつ学習時間を取るようにしていました。そして夏頃に出た最終の評定が、志望校の公募への出願条件となる基準に奇跡的に届き、この頃から一般に向けた勉強と並行し、小論文、面接の勉強を進めていきました。

初めて出願に向けて志望理由書を書こうとした時、どんな学校なのか？どうして受けようと思ったのか？と塾の先生に聞かれ、私は何も答えられず、先生に「本気で行きたいなら、もっと志望校について知らないと」と言われ悔しかったこともあります。私は、元々メンタルは強い方のですが、受験期は不安が多く、弱音ばかり吐いていました。公募推薦の試験当日は極度の緊張とストレスから熱を出し、吐き気とともにフラフラしながら試験会場に行きました。しかし、本番では、夏では時間内に書ききれなかった小論文が、30 分余るほど早く書ききれたり、練習では「話が長い！」と言われていた面接も、本番では手応えのあるような密度の高い話が出来るようになっていたりと、自分のやってきたことが意味のある事だったと実感できました。そして、その結果、合格することが出来ました。きっと、受験期は皆さんが想像するより何倍も精神的に辛いものになると思います。しかし、その分、合格した時の喜びは忘れられないものになります。努力は絶対に良いこととして自分に返ってくるので、安心して受験勉強に励んでください！

【一般選抜　私立】　慶應義塾大学　法学部　政治学科

皆さん、こんにちは。生田高校 51 期の卒業生です。今回私は合格体験記にて、皆さんに伝えたいことが３つ程あります。多少なりとも皆さんの力になれれば、幸いです。

一つ目が志望校の分析です。まず私は自分の第一志望である慶應義塾大学の問題を確認し、その分析を行いました。そして、自分の具体的な勉強方針を確立しました。こうして、私は受験勉強の際、迷わず勉強を進めることができ、自らの志望校に合わせた無駄のない勉強ができました。“敵を知り、己を知る”という孫子の有名な言葉にもあるように、まず自分の目標をよく捉え、次に自分のすべきことを確立していくべきだと思います。

二つ目が継続力です。とにかく継続して勉強することが大切です。一日に 10 時間以上勉強しても、続かないのなら、毎日 8 時間勉強する方が良いです。毎日の復習が自身の知識となり、力となります。私は単語など、毎日欠かさず覚えました。とにかく、日々の積み重ねが大切です。

最後に勉強量を大切にして欲しいです。よく効率的な勉強法を模索する人がいますが、とにかく勉強しなくては意味がありません。現代の産業が手作業から始まり、道具の普及などを通して、機械制へと至り、効率化されたように、量をこなすことで質が高まります。まずは勉強をしましょう。

私が伝えたいことは以上です。受験は厳しい戦いとなりますが、皆さんが良き春を迎えられることを心より願っています。ご健闘をお祈りいたします。

【総合型選抜　私立】　國學院大学　人間開発学部　健康体育学科

私は高校 2 年生の時に教師になりたいという夢を持ち、教員就職実績の良い國學院大学を志望校に決めました。総合型選抜を受けようと決めたのは、高校３年生の春からです。この入試方法はとにかく自分の強みを見つけ、自分自身の性格や特徴と真っ向から向き合うと同時に、その大学について多方面からの情報を集める必要があり、最初はとても苦労しました。また、推薦入試と違い、高い倍率があるため一般入試の勉強と並行してやっていたこともとても大変でした。2 つの勉強を両立するために大切なことは、早い時期から始め、総合型選抜の勉強時間を 1 日何時間と決めて時間を有効活用することです。私は 1 日 2 時間程度をそれに当て、それ以外の時間は一般の勉強に集中しました。大学に提出するためのレポートや活動計画書は、夏休み前から書き始め何十回も学校の先生に添削してもらい書き直しました。

自分の強みを見つけ、それを大学側にアピールするこの入試方法の成功の秘訣は主に 2 つあります。1 つ目は、高校 3 年間でたくさんのことを経験することです。部活や勉強を前提として、行事に積極的に参加したり外部でのボランティアや習い事に力を入れたりすることで、広い視野で物事を考えられる力を身に付けることができます。2 つ目は、誰にも負けないと言える強みを 1 つ早いうちから見つけ、その魅せ方を工夫して入試に望むことです。自分の持っている強みに、経験談や応用方法を取り入れてアピールするとより良いものになります。

大学4年間は、自分の目標達成のための準備の期間です。周りの評価だけで物事を決めるのではなく自分の意見を大切にして、未来のために今何が必要かを考えて入試に望んでください。応援しています。

【総合型選抜　私立】　東洋大学　情報連携学部　情報連携学科

私は、電子楽器を開発するために必要なプログラミングや情報処理について学びたいと思い、高校二年生の秋ごろに志望校を決めました。

この学部の総合型選抜では、数学とプログラミングの学力試験があるということを知り、入学後も学び続ける分野に今から触れることのできるのはお得だと考え、この方式で受験することを決めました。

しかし、入試において最も重要視されたのは「なぜこの大学、学部で学びたいのか。」でした。これは、どの大学の総合型選抜でも同じだと思います。そのため、将来の夢や身に着けたい力と、志望校の教育内容に強い関係がある方には、とても向いている入試方式だと思います。

面接対策は、就活生向けのwebサイトや書籍を見ながら受け答えのイメージを作り、先生方と実践練習を繰り返し行いました。当日は、この学部で学ぶことが将来の夢の実現にどう役立つかをしっかり伝えることを意識しながら会話をしました。

総合型選抜は、一般受験の勉強と両立をしなければならず、心細くなることもありますが、志望校について詳しく調べることでモチベーションが上がったり、将来について深く考えたりすることができるなど、自分のためになることもたくさんあります。　また、その他の入試方式の方も、将来やりたいことと大学での学習内容のつながりをじっくり考えて、自分に合った志望校を見つけてほしいです。

皆さんのこれからを応援しています。

【公募制推薦　国公立】　東京学芸大学　中等教育教員養成課程

私が受験を通して学び、伝えたいことが二つあります。

まず、合格に必要な物や環境は、意外に揃っています。学校の授業や副教材、時間など、当たり前に存在するが故に、その有用性を忘れがちです。重要なのは、それらの有用性に気付き、最大限に活用することです。私は塾や予備校に通いませんでした。受験に向けて買った教材も、高校で履修しなかった教科や文転によりハンディを感じた教科等、最小限です。一方、三年間、授業中の記憶とメモの質には全力を注ぎました。評定、偏差値等を伸ばし維持するのに、不足を感じたことはありません。教材も時間も、他の何かを犠牲にせずとも充分手に入ります。代償を払うことは、「専念している」感への甘えと紙一重です。

更に、特に面接や小論文の試験に向けて重要なのが、「意思をもつ」習慣です。一般入試の学科対策に必死だと、公募推薦等の対策にはなかなか時間を割きづらいものです。日頃か

ら、見聞きする事物に対し自分の意見を明確にもつよう習慣付けることで、意思の軸や価値観が固まり、即応性も高まります。上記試験では、こうした面が根底に強く問われていたように感じます。物事を鵜呑みに肯定するのでなく、頭から否定するのでもなく、多角的に、建設的に批判するような思考習慣が大切です。

これら二点が、私の合格の根本となったように思います。是非普段から思考し、全てを活用して下さい。努力の為の効率的な土台となる筈です。頑張れ!!!

【公募制推薦　私立】　東京理科大　経営学部　ビジネスエコノミクス学科

私はもともと推薦方式で受験に挑めるほどの評定は取れていませんでした。ですが、二年生になった時から塾で進路面談を重ねていく上で推薦方式にも対応できるようにしておくことが自分の進路を実現する近道を増やす事に繋がるということを知り、日々のテストや提出物にも力を入れて取り組むようにしました。テスト前は7時頃から学校で朝勉をして、放課後は最終下校までみっちり勉強しました。日々の努力が身を結び、学年真ん中あたりの成績が30位以内となり最終的には学年1位の成績を取れました。

私は理系の物理選択だったのですが、大学では、得意な数学と結びつけて経営を学びたいと考えていたので、理系に強い東京理科大学の経営学部を志望しました。

生田高校には理科大経営学部の指定校推薦枠があり校内選考にエントリーしたのですが落ちてしまい悔しかったのですが、推薦以外にも一般に向けた勉強にしっかりと取り組んでいたので、すぐに切り替えて公募制推薦に向けた対策に移ることができました。

公募制推薦では面接・自己推薦書・小論文の全てにおいて高い完成度を要求されるため、試験日の2ヶ月ほど前からはその対策だけに絞って取り組みました。面接練習は学校だけでなく塾や家でも行い、多くの方にご指導いただきました。自己推薦書は国語の先生に添削をして頂き、嫌になる程文章をたくさん書きました。また理科大の小論文では、数学の公式や定理の導出を問われるため、数学ⅠAⅡBの教科書に載っているものを全て復習し、自分で導出できるようにしました。さらに数学の先生に予想問題を作ってもらい、それにも取り組みました。驚く事に入試本番で予想問題と同じ問題が出ました！！

最後に、推薦入試を受けようと考えている人に必要なことは2つあります。ひとつ目は、校内選考で落ちてしまった際に焦らなくていいように一般に向けた勉強をしっかりとやっておくことです。ふたつ目は、標定を0.1でも高くするために授業・提出物・テストに対して妥協せずに取り組むことです。このふたつができてれば最後は気持ち勝負です！頑張れ！！

【指定校推薦　私立】　中央大学　法学部　国際企業関係法学科

私が受験について真剣に意識し始めたのは2年生の春です。1年生の学年末テストがコロナで中止になり、2年生からオンラインでの授業へと切り替わりました。学校がなくなり、塾にも通っておらず、周囲の状況が分からない中で、具体的な志望もなく、特出した

何かがあるわけでもない自分の現状と将来に不安を感じたことがきっかけでした。そこから受験勉強を始めると共に、推薦という選択も出来る様に学校の勉強にも力を入れました。具体的には、参考書やオンラインの講座を軸としながら、テストの１ヶ月前になったら追加で学校の勉強を行いました。当時は不安で必死に机に向かいましたが、結果としてテストの点数もついて来るようになり、第１志望の学校、学科の推薦の枠があったことから推薦をベースに考えるようになりました。勿論、校内選考が終わるまでは、一般の勉強も継続して行いました。校内選考で推薦を頂いてからは、小論文の試験の為に過去の出題元を調べて先生に添削をして頂きながら対策を行いました。

受験を通して、2 年生の時点である程度の基礎固めが終わっていた事で、3 年生で一般の勉強だけでなく、学校の勉強にも更に力を入れられた事は良かったと思います。正直、受験は早くから始めた人が有利ですし、特に推薦は沢山の人が決まった枠を希望する為、様々な情報に頭を悩ませる事も少なくありません。しかし、先ずは自分を持って、1 番に自分が行きたいと思う所に向かって努力を続けて欲しいと思います。

【就職　公務員】川崎市役所

私はひたすら「川崎市の職員として働きたい」という強い想いを胸に勉強を続けていました。自分を育ててくれた地域のために働きたい、川崎市をより魅力的な市にしたいという思いがあったからです。私は自分自身のこの強い想いに何度も助けられました。

私が在籍した学年では就職するのは私一人でした。友人やクラスメイトが進学に向けて取り組んでいる中、私だけは違う方向を見ていて少し疎外感を感じていました。家族には就職を反対されていて、ずっと進学を勧められていました。それでも私が勉強を続けることができたのは、この強い想いがあったからです。模試の結果が良くなかったり、家族と衝突したりしてネガティブな気持ちになっても、「絶対に川崎市の職員になるんだ」と半分熱意、半分反抗心でペンを動かし続けました。もちろん意固地になって周りの意見を聞かなかったわけではありません。なぜ家族が私に進学を勧めるのかよく話し合い、進学と就職それぞれのメリット・デメリットについてよく調べ、そのうえで私は就職を選びました。

時間が経つにつれ強い想いが家族に伝わり、最終的には私の就職を応援してくれました。抱き続けた強い想いが結果に繋がり、一次試験を突破することができました。アピールし続けた強い想いが面接官を動かし、二次試験も突破することができました。

進路の決め方も、それを達成するやり方も人それぞれだとは思いますが、あなたなりに強い想いを持って取り組んでみてください。きっと「やってよかった」と思える日が来るはずです。応援しています。